



これから伝えていきたいこと

ピアニスト

一般社団法人ミュージックプロデュース MHKS 理事
田原 さえ

ちょうどコロナ災禍が始まる直前 2019 年 11 月 1 日に「Music for Hearts Keeping on Smile」をモットーとする任意団体 MHKS（発足：2008 年秋）は、一般社団法人となりました。そしてコロナとの共存に苦しみながらも、特に演奏の機会を失った若手演奏家を応援する企画を多く立ち上げてきました。

私たちが主に手掛けているクラシック音楽は、どちらかという「難しそう」とか「近寄りづらい」といったイメージを持たれがちです。そもそも MHKS を立ち上げたのも、「クラシック音楽は敷居が高いよね～」との一言がきっかけでした。そこで奮起して「敷居は低く、クオリティは高く！」を合言葉に、様々なコンサートなどを企画・開催してきたわけです。でも、クラシック音楽は本来難しいものではなく、現在私たちが楽しんでいるポピュラー音楽の基礎になっているものです。例えばバッハやベートーヴェン、モーツァルトの音楽は、電気のないつまり、テレビもゲームも、もちろんインターネットもない一時代に生まれました。そんな時に、何か楽器があって誰かが上手に演奏でき、それに合わせてみんなで歌ったり踊ったりすることはどんなにか楽しかったらと想像できます。それが、クラシック音楽が 300 年以上も人々に愛され、演奏され続けてきた理由のひとつです。

先日、名取市下増田児童センター新施設オープニングイベントで、瀧 靖之先生（東北大学加齢医学研究所教授）のオンラインによる講演に続いてミニコンサートをさせて頂きました。瀧先生とは、「子どもの脳の発達と音楽」というテーマでお話

いただいた後、私が実際にピアノで演奏をする、というコラボレーションを行っています。今年度も、超多忙な瀧先生に何とか時間を作っていただき、榴岡児童館と新田児童館の地域公開セミナーとして小学校と地域も一緒に 1 月と 2 月に実施する予定です。また、せん杜と MHKS との協働で「ライブ&フリートーキング！」というイベントが 12 月と 2 月に行われます。そのねらいは、生まれた時からスマホが身近にあり、電子音に囲まれて育つ現代の子どもたちに“生の”音による音楽を届けるには、どのような連携が必要か、などいくつかの問題点について色々な方に考えて頂くきっかけを作ろうというものです。いずれも、柔らかな子どもたちの脳や感性を、しなやかに、伸びやかに育ていくためにはどんな環境が必要なのか、という問題意識につなげられたら、と思います。

例えば“生の”音は自然の風や光と同じで必ず減衰し消えていくこと、それは命と同じだということを感じてほしい。或いは演奏家たちは美しい音や生き生きとした音を自分の手で紡ぎだしたいと願って、幼い時から毎日努力を重ねていることを知ってほしい。そういうことを、音楽を通して感じとってもらえる機会を増やしていけたらいいな、と願っているのです。

